

三重県における大豆生産 について

令和5年10月18日 令和5年度東海大豆現地検討会
三重県中央農業改良普及センター 内山裕介

大豆生産の状況

・品種構成（R4年産）と用途例

① フクユタカ	96%	豆腐 等
② サチユタカA1号	2%	豆腐 等
③ 在来大豆（美里在来）	1%	豆腐、きな粉 等
④ その他（すずおとめ等）	1%	納豆 等

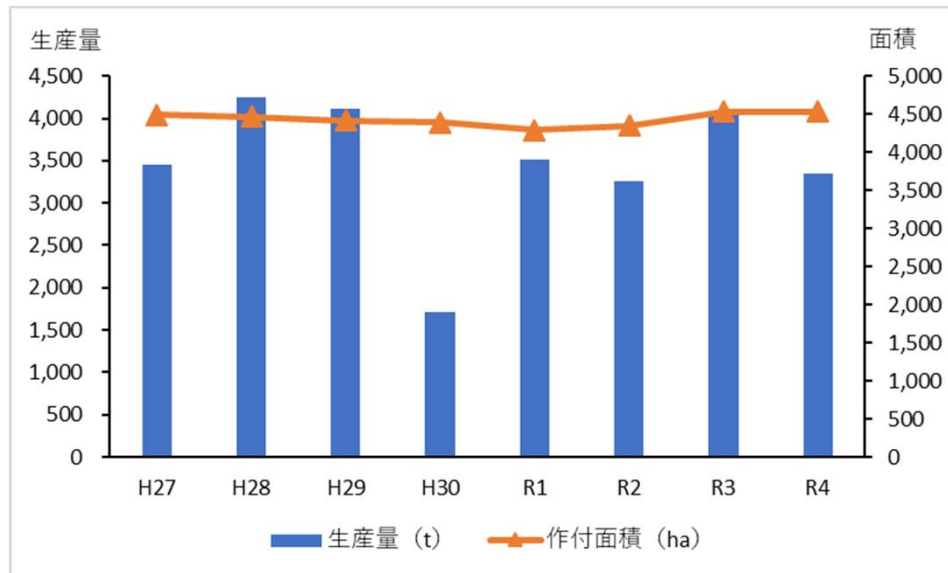


「フクユタカ」（左）と「サチユタカA1号」（右）

大豆生産の状況

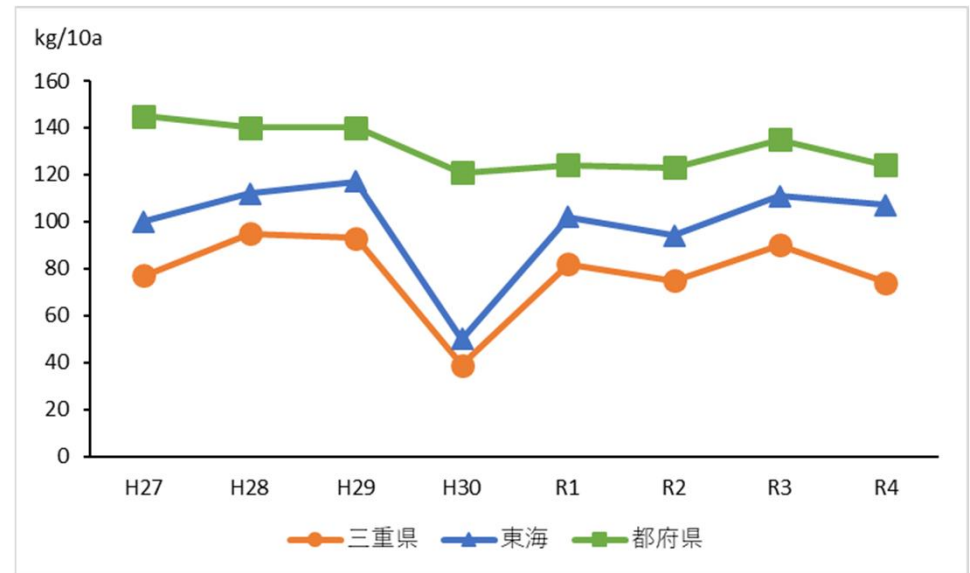
・生産量(t)と面積(ha)

ーR4年産の作付面積（4,530ha）：全国10位



・単収(kg/10a)

ーR4年産の単収（74kg/10a）：全国41位



大豆生産の状況

- 作付け経営体数と面積

- R2年産

748経営体 3,995ha

- H22年産

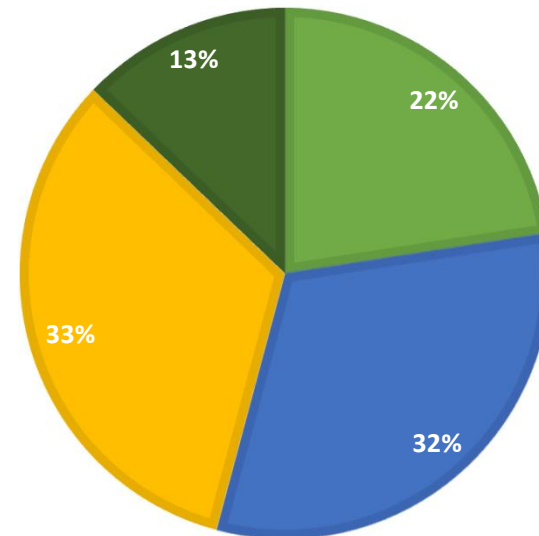
1,679経営体 2,411ha

10年間で経営体数は1/2以下
面積は1.7倍

ただし、2ha以上の経営体に限って
みると250~300戸で推移

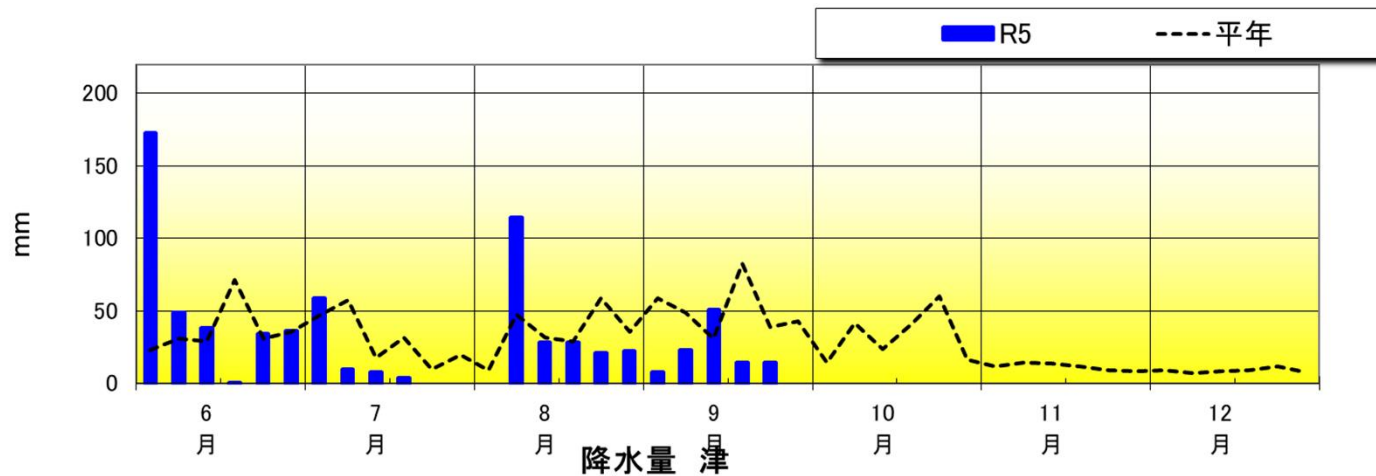
- 規模別生産者数（R4年産）

■ 2 ha以上～ 5 ha未満 ■ 5 ha以上～10ha未満 ■ 10ha以上～30ha未満 ■ 30ha以上



生産における問題

- ① 7月以降の播種が中心となっており、梅雨と重なるため、播種遅れや播種後の湿害を受けやすい。



- ② 99%が水田で作付けされており、湿害を受けやすい。
- ③ 虫害、雑草害の多発による収量・品質低下。

課題解決に向けた取り組み

① 早期に播種が可能なリスク分散ができる品種の導入検討



開花期頃（7月末）の「里のほほえみ」（左）
と「サチユタカA1号」（右）
両品種とも播種は6月中旬
（農業研究所内圃場：松阪市）



実需との現地検討および意見交換

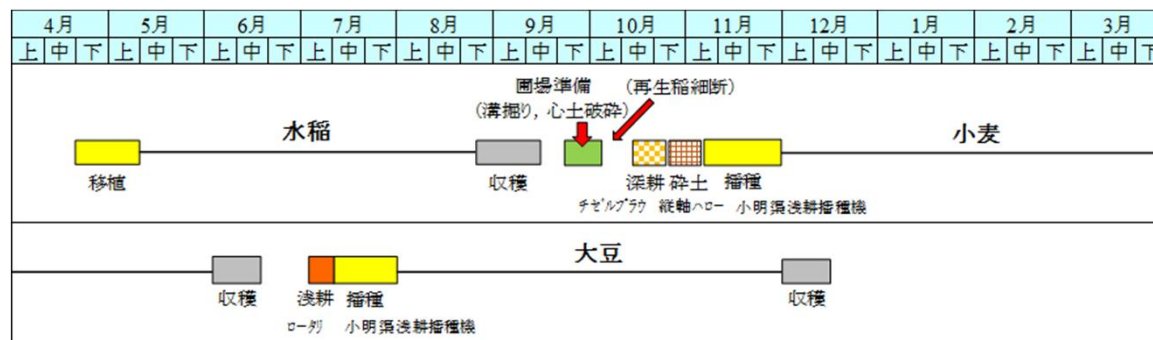
R4実績 161kg/10a (71.7ha)

課題解決に向けた取り組み

② 麦前の深耕および明渠施工による排水対策



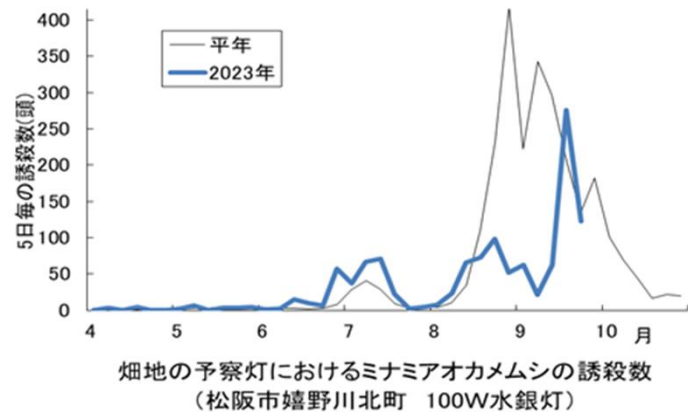
簡易な排水性診断の実施（左2枚）と
チゼルプラウによる深耕（右）



2年3作体系下でのチゼル深耕体系における作業
体系図

課題解決に向けた取り組み

③ 吸実性カメムシ類の複数回防除および雑草体系防除



吸実性カメムシ類（ミナミアオカメムシ）の
多発生が近年続いている



土壌処理剤と中耕培土、選択性茎葉処理剤に
よる体系防除（慣行（左）、実証（右））